

令和7年度(2025年度)第1回南区まちづくり懇話会 会議録(要旨)

- 1 日時 令和7年(2025年)5月26日(月)午前10時~午前11時57分
- 2 場所 南区役所 3階大会議室
- 3 出席者 計31名(出席者名簿のとおり)
- 南区まちづくり懇話会委員 10名
安部委員(会長)、高橋委員(副会長)、高濱委員、後藤委員、西村委員、
中島(和)委員、松枝委員、友清委員、中島(久)委員、福田委員
 - 事務局 21名
南区長、区民部長、保健福祉部長、南区土木センター所長、
南区管内まちづくりセンター所長(6名)、福祉課長、保護課長、区民課長、
保健こども課長、総務企画課長、総務企画課副課長、保健こども課職員(1名)、
総務企画課職員(4名)

4 内容

- (1) 開会
- (2) 区長挨拶
- (3) 職員紹介・懇話会委員自己紹介
- (4) 役員選出
- (5) 議題〈意見交換〉
 - ・南区まちづくり懇話会について 資料1
 - ・令和7年度南区まちづくりの取組について 資料2-1、資料2-2
- (6) その他
 - ・南区健康まちづくり事業の取組の紹介 資料3
- (7) 閉会

5 役員選出議事録

(事務局)

「熊本市南区まちづくり懇話会設置要綱」第5条には、会長及び副会長についての記載がございます。本日は第1回目の懇話会のため、会長及び副会長の選出を行います。会長、副会長は要綱第5条2項により、委員の皆様の互選による選出となります。まず、会長の選出をいたします。どなたかご推薦はございませんか。

(高橋委員)

会長は、まちづくりに関して見識があり、他区でもまちづくり懇話会委員を務められている安部委員を推薦したい。

(事務局)

ただいま、高橋委員より安部委員を会長にとのご推薦をいただきましたが、皆様いかがでしょうか。

(他の推薦なし)

(事務局)

それでは、安部委員が会長ということでよろしいでしょうか。ご承認いただける方は拍手をお願いいたします。

(委員一同 拍手 ⇒ 賛成多数により承認)

(事務局)

それでは、安部委員に会長をお願いしたいと思います。

次に副会長の選出を行います。どなたかご推薦いただけますでしょうか。

(西村委員)

副会長は、6年にわたり南区まちづくり懇話会委員を務められている高橋委員をお願いしたいと思います。

(事務局)

ただいま、西村委員より高橋委員を副会長にとのご推薦をいただきましたが、皆様いかがでしょうか。

(他の推薦なし)

(事務局)

それでは、高橋委員が副会長ということでよろしいでしょうか。ご承認いただける方は拍手をお願いいたします。

(委員一同 拍手 ⇒ 賛成多数により承認)

(事務局)

それでは、高橋委員に副会長をお願いしたいと思います。

安部会長、高橋副会長、どうぞよろしく願いいたします。

6 意見交換議事録

「南区まちづくり懇話会について資料 1」及び

「令和 7 年度南区まちづくりの取組について資料 2-1、資料 2-2」について

< 資料 1 及び資料 2-1、資料 2-2 について 事務局から説明 >

(安部会長)

南区のイベントなどの地域への情報発信・情報共有はどのように行われているのか。

(総務企画課)

事業ごとに、各種 SNS、ホームページなどで情報発信をしている。

(高橋委員)

各イベントの参加者に、どの媒体を見て参加しようと思ったのか、アンケートを実施するといのでは。重ねて、各事業でくまもとアプリの広報をするとい。

(安部会長)

情報発信に関する事について各委員から意見をいただきたい。

(高濱委員)

Instagram など、簡単に見ることができる SNS で広報を行うことで参加者が増えるのでは。

(後藤委員)

SNS は、年配の方はあまり見ない。市政だより等の紙での情報がメインである。

(西村委員)

穴掘り大会は参加者 500 名ほど。興味を持った方は参加する。デジタルの広報はとても簡単だが、紙媒体も忘れないでほしい。いろんな通知の中にお知らせを同封してほしい。若い人にはデジタル(QR コード)でも構わないと思う。

(中島和委員)

高齢者の方への広報で、SNS は難しいと感じている。

飽田は、高齢者の数は増えているが、高齢化率は下がっているので、住民は増えている。今年度のボッチャ大会も、新旧住民の関わりを増やす機会になることを期待している。

(松枝委員)

熊本市 LINE について、自分の住んでいる地域や、興味のある分野を選んでおくと、それに合った情報が随時入ってくるので便利だと思っている。くまもとアプリもそういった感じになるのかなと感じている。しかし、高齢者にはハードルが高いため、回覧板などの紙媒体の重要性も認識しておいてほしい。

年間通しての南区のイベント予定表などは公開されているのか。

(総務企画課)

市のホームページで公開されている。(広報課にて月報くまもとを作成している)

電子媒体も広く考えていかなければならない。DX 推進といわれているが、紙媒体も忘れず、必要の方に必要な情報がきちんと届く広報を行っていきたい。

(総務企画課)

昨年度実施した南区デジタルスタンプラリーは、ポスター・チラシで知った人が多かった。収穫体験は、市政だよりのみの広報で定員オーバーになるほど応募が多かった。(そのため、LINE やホームページでの広報は行っていない。)

くまもとアプリについて、今年度から自治会活動の参加者を募集できる機能が加わっている。実施するには事前に自治会等からの申請が必要となるが、くまもとポイントの付与やボランティア活動証明書の発行ができるようになった。

(友清委員)

緑川下流出張所でも、知らせたい対象の人々の実態に応じて広報の手段を変えている。実際は、対象に高齢者が多いため、紙媒体の広報が多い。若い世代から高齢者まで、取りこぼしのない広報をお願いしたい。

(中島久委員)

高齢者に対する地域内の情報共有は、回覧板がまだ多い。顔の見える集まりを何かしら作り、情報共有をし、孤立させない地域にする。若い方は、SNS だけでもいいかもしれないが、世代間のギャップは認識しておくべきだと思う。つながりの強化という面では、多くの方が参加する地域密着型のイベントがあるのは大事だと思う。しかし、イベントだけではまちづくりはうまくいかないと思うので、あくまでもイベントは顔を合わせてつながりを作るきっかけとしてあって、そこから互いにつながって、安心安全なまちづくりが進んでいけばと思う。

(福田委員)

PTA 活動時は広報に苦慮した。広報を受け取る側はたくさん通知が届くので、見落とす方も多。人づてに聞いたイベントは参加しやすい。

(安部会長)

回覧板がある地域は強い。DX 化や紙代などの予算と兼ね合いもあるが、紙とデジタルを並行させていくべきだと考える。

(南区長)

皆さんがおっしゃるように、それぞれの世代に応じた効果的な情報発信の方法を考えていく。地域資源活用事業は、とても満足度が高いイベントだが、定員が少なく参加できない人も多。このようなイベントにおける情報発信について、意見を頂戴したい。

(高濱委員)

南区は、米農家より野菜農家が多い。このような農業体験の事業があれば協力的な農家が多いのではないと思う。参加者についても、南区だけに絞るのではなく、他の区からも参加者を募り南区の野菜、特産品の良さを広めてもらえるとありがたい。

自分自身も南区に住んでいるが、南区の野菜や特産品を南区の方々が(認識をして)食べているのかなあと思う部分はある。ぜひ、南区の野菜や特産品をどんどんアピールして頂ければありがたい。

(安部会長)

イベントについて、収穫時期は忙しいのではないか?その辺りが心配ではある。今、高濱委員が言われたように、南区にお住まいの方が南区の野菜や特産品などを知っているのかなあと思う部分があるので、南区でその辺りの発信を強化していただきたい。

(高濱委員)

イベントへの協力については、あくまでも無理強いせず、協力できる方に声をかけるといい。

(南区長)

おっしゃる通り、まずは南区にお住いの方々が南区の野菜や特産品を知り、愛するといったことは非常に大事だと思うので、その辺りの発信は行っていきたいと思う。協力いただける農家の SNS 発信をすることで、参加希望者も増え、南区 PR にもつながるので今年度検討していく。

「南区健康まちづくり事業の取組の紹介資料 3」について

< 資料 3 について 保健こども課から説明 >

(中島和委員)

前回の飽田での活動はとても盛り上がった。あとは、こどもがもっと増えるといいと思う。こどもが参加することで、それに引っ張られる形で現役(子育て)世代も参加するはず。そういった形で交流が進めばと思う。

(高橋委員)

地域ごとのデータがあり興味深い。健康まつりなどイベント時だけでなく、運動などを習慣化できるといい。「健康」というと、どうしても若い世代はピンとこない部分もあるので、こどもの参加はなかなか難しいかもしれないが、保護者の方に連れてきてもらうなどして参加者数の向上につながれば。

くまもと健康アプリで歩数なども記録できるのでぜひデジタルも活用してほしい。

(松枝委員)

南区健康まちづくり事業は、南区内の全地区で行っていくのか。

(保健こども課)

全校区で取り組んでいる。飽田は3校区まとめて行ったが、他の地域では校区ごとに自治協などの団体と連携して、実態に合わせて行っている。

(松枝委員)

川尻では町内ごとでやっていることが異なる。校区ごとに違う活動をするということか。

(保健こども課)

校区の特性は違うので、校区に応じた活動を行っていく。

(安部会長)

こういった取組を通して、校区ごとの特徴などが見えてくるのはいいことだと思う。健康まちづくりとして、イベントとしてやる部分と、健康になってほしいという取組としてやる部分との棲み分けが難しいと感じる。こどもが楽しみつつ、高齢者の健康増進にもつながるような、世代を超えて楽しめるようなイベントや取組を企画していってもらえるといいなと思う。

(高橋委員)

以前、校区の写真を撮りながら歩いて回り、危険箇所を見つけて共有するような運動と防災を掛け合わせたような活動があったように記憶している。このようにゲーム性があると、こどもたちの参加も増えるのではないかと。防災などはつなげやすいはず。ソフト事業として、いろんな世代とつなげられると面白いのではないかと。

< 議事終了 >